

単元名

四季が丘未来づくりプロジェクト ～四季が丘を住み続けられるまちにしよう～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎ 10年後、私達はどんな社会に住みたいだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
● 四季が丘の未来を住みよくするために自分達でできることは何だろう。

【単元の目標】
社会問題と SDGs「17 の目標」とのつながりに触れ、環境問題や持続可能なまちづくりに関する課題等の背景にある原因について調べる活動を通して、自ら課題を設定したり、課題解決に必要な情報を集めたりしながら、未来を創る担い手として何ができるか積極的に考え、実践しようとすることができる。

【連携諸機関・人物】

- ・ 四季が丘市民センター
- ・ 四季っ子応援団

活動の概要

世界が直面している課題から SDGs という達成目標についての理解を深め、国語科の「町の未来をえがこう」の学習を通して、町づくりに参画することの大切さを学んだ。その二つの学習をつなぐことで、「四季が丘の未来を住みよくするために自分達でできることは何だろう」という課題を設定することができた。四季が丘の現状や課題について情報収集し、その結果を整理・分析し、他市町の事例も参考にしながら四季が丘をよりよくするための取組を考えた。複数の取組を学級全体で吟味し、中でも地域への貢献度が高いと判断したものを実践した。

★アピールポイント★

- ・ 授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・ 地域人材、財産等の活用
- ・ 児童の心を揺さぶる仕掛け



＜調査結果＞

- ・ 情報を集める際には、市が提供している四季が丘地区に関わる実際のデータや、住宅団地が抱える問題についての書籍などを活用することで、地域の現状について現実味のある調査を行うことができた。
- ・ 四季っ子応援団の方の協力のもと、地域を実際に歩いて調査を行った。事前学習で得た見方・考え方を通して自らの目で確かめることができ、より深く地域の現状を探究し、理解することができた。
- ・ 取組内容を吟味する際には、「問題点を解決するものであるか」「継続して行うことができるか」「自分達に可能か」など視点を明確にし、具体性をもって比較・検討することができた。

＜交流＞

＜実践＞

児童生徒の姿（○），児童生徒による振り返り（◇）

- 地域の現状について本格的な資料に基づいて分析したり、SDGs の見方・考え方を活かしてフィールドワークを行ったりしたことで、多くの児童が課題意識をもち、活動に主体的に取り組むことができた。
- 他地域の地域活性の取組を参考にすることで、「地域を大切にすることの重要性を紙芝居で下学年へ伝える」や「地域の魅力をアピールする看板を作って設置する」など、自分たちの地域に合った取組を様々な考え、その中から十分に吟味したものを実践することができた。
- ◇ 「地域を大切にするために、これからも自分たちにできることを積極的に取り組んでいきたい。」と、地域への愛着や未来へ向けて参画意識を高めたものや、地域の現状を知ることや広めることの大切さに気づき、解決するために取り組みたいといった記述が多く見られた。

